

5) ハイビスカスに発生したモトジロアザミウマに対する主要薬剤の殺虫効果

(1) 目的

2013年に県内で新たに発生が確認されたモトジロアザミウマに対する主要な薬剤の殺虫効果を確認し、今後の防除の資とする。

(2) 材料および方法

① 供試虫

2013年4月に宇都宮市のハイビスカスほ場から採集したモトジロアザミウマをハイビスカス上で増殖させ、雌成虫を供試した。

② 供試薬剤

供試薬剤は、花き類のアザミウマ類、ミカンキイロアザミウマに登録のある薬剤を表1の濃度で用いた。展着剤としてマイリノーを最終濃度10,000倍となるように加えた。対照区は展着剤のみを加えた水道水を用いた。

③ 検定方法

検定法は柴尾(2013)のソラマメ葉片浸漬法を参考に、きゅうりの子葉を用いて行った。きゅうり子葉1枚(約1×2cm)を薬液に浸漬・風乾後、ろ紙片、供試虫(20頭程度)と一緒にスチロール容器に入れ、25℃条件下に置いた。48時間後に生死を判定し、Abbottの補正式を用いて補正死虫率を算出した。試験は各区3反復行った。

$$(\text{補正死虫率}(\%)) = \{ (\text{対照生存虫率} - \text{処理生存虫率}) / \text{対照生存虫率} \} \times 100$$

(3) 結果

①アセタミプリド、チアメトキサム、アセフェート、プロチオホス、マラソン、エマメクチン、アバメクチン、クロルフェナピル、トルフェンピラドの殺虫効果は低かった。

②スピネトラムの殺虫効果は高かった。

表1 ハイビスカスのモトジロアザミウマに対する主要薬剤の殺虫効果

薬剤名	商品名	薬剤系統名	試験濃度 (倍)	補正死 虫率(%)
アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	2000	2
<u>チアメトキサム水和剤</u> ¹⁾	<u>アクタラ顆粒水和剤</u>	ネオニコチノイド	1000	0
アセフェート水和剤	オルトラン水和剤	有機リン	1500	1
プロチオホス乳剤	トクチオン乳剤	有機リン	1000	5
マラソン乳剤	マラソン乳剤	有機リン	2000	0
スピネトラム水和剤	ディアナSC	スピノシン	5000	98
<u>エマメクチン安息香酸塩乳剤</u>	<u>アフアーム乳剤</u>	マクロライド	2000	9
<u>アバメクチン乳剤</u>	<u>アグリメック</u>	マクロライド	500	0
<u>クロルフェナピル水和剤</u>	<u>コテツフロアブル</u>	ピロール	2000	41
トルフェンピラド乳剤	ハチハチ乳剤	METI	1000	6
対照区 ²⁾				94

1)薬剤名の下線および斜体は、花き類・樹木類の「アザミウマ類」に登録が無いことを示す。

2)対照区は生存虫率の値を示した。